

令和2年度決算報告

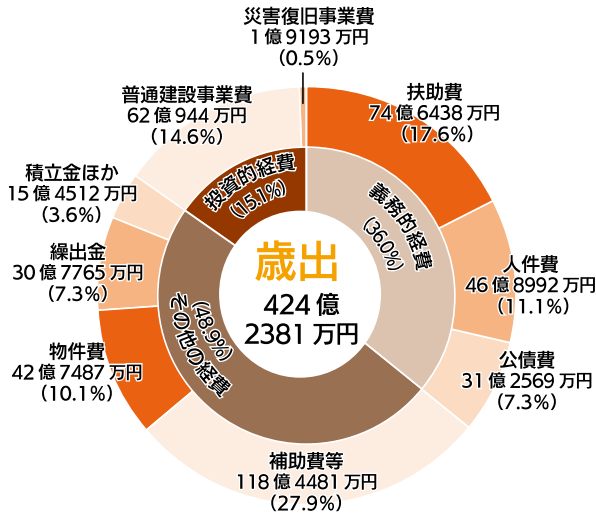
令和2年度決算が9月市議会定例会で認定されました。令和2年度の一般会計の決算額は、歳入が433億9729万円、歳出が424億2381万円、差し引き9億7348万円。これから翌年度へ繰り越した事業にあてる財源2億1036万円を差し引いて、実質収支で7億6312万円の黒字決算となりました。

【問】市財政課財政係 ☎77・8432

●令和2年度決算の特徴
 コロナ関連経費のため、過去最大の決算額となりました。

●主な歳入
 市税は、歳入全体の15・1%にあたる65億2272万円、営業所得の増加などにより前年度に比べ3890万円の増加となりました。地方交付税は、歳入全体の20・2%にあたる87億7815万円、前年度より1億342万円の減少となりました。また、市債は、市民文化会館整備事業や新ごみ焼却施設整備事業により、前年度より22億4905万円多い62億1409万円を借り入れました。国庫支出金は、コロナ関連費の増加により、77億6540万円の増加となっています。

●主な歳出
 福祉や医療のために必要な扶助費は、歳出全体の17・6%にあたる74億6438万円。生活保護費の減少などにより、前年度と比べて1億4228万円の減少となりました。また、補助費等はコロナ禍の中、1人一律10万円が給付された特別定額給付金事業費により88億3955万円の増加となっています。



歳出用語解説

扶助費 生活保護や保育所など福祉や医療助成のための経費

公債費 市の借金の返済金

繰入金 一般会計から国民健康保険特別会計などへの支出金

物件費 委託料や消耗品の購入費、賃借料など

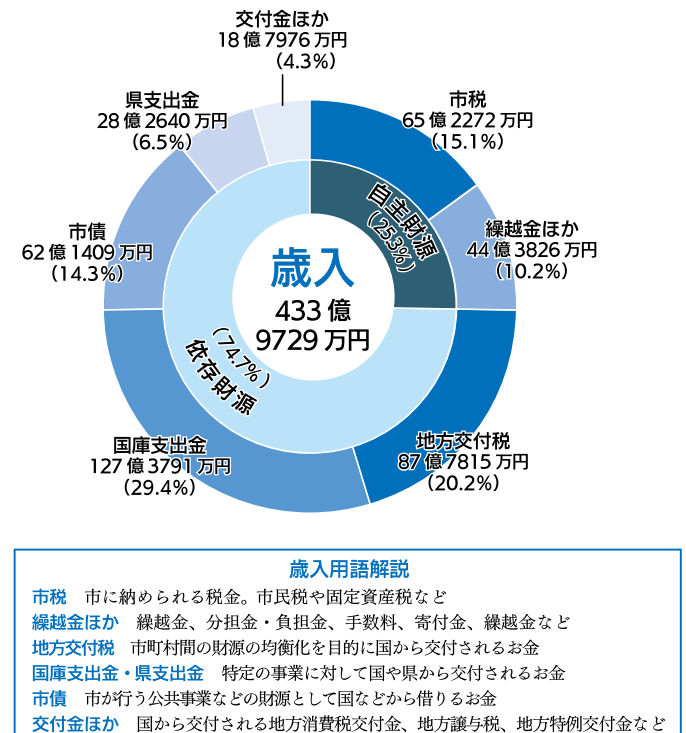
普通建設事業費 道路や水路、学校など公共施設の建設費

積立金ほか 積立金、投資・出資・貸付金、維持補修費

歳出

●普通建設事業費は17億4千万円の増

歳出総額は、前年度に比べると36・9%増の424億2381万円です。施設整備や道路などの工事に必要な普通建設事業費は歳出全体の14・6%にあたる62億944万円、市民文化会館や新ごみ焼却施設の整備事業により前年度に比べ17億4759万円の増加となりました。



歳入

●依存財源は全体の74・7%

歳入総額は、前年度に比べると34・9%増の433億9729万円。そのうち、国や県から交付されたり割り当てられたりする依存財源が全体の74・7%を占めています。地方交付税が減少している厳しい財政事情の中、補助制度や基金の適正な活用、計画的な借入を行い、必要な財源の確保に努めました。

市民1人当たりに使ったお金は

歳出決算額

424億2381万円 ÷ 6万4576人
 (令和3年3月31日の人口)

= 65万6959円でした。



決算を「家計」に例えたら 市の決算を10万分の1の歳入「43万4000円」、歳出「42万4000円」として、1カ月の家計簿に置き換えてみると、以下のようになります。

収入 (カッコ内は予算科目)	金額	支出 (カッコ内は予算科目)	金額
基本給 (市税、使用料、手数料など)	82,000円	食費 (人件費)	47,000円
諸手当 (地方交付税など)	94,000円	医療費、教育費など (扶助費)	74,000円
親からの仕送り (国庫補助金など)	174,000円	水道光熱費、物品購入費用 (物件費)	43,000円
銀行からの借入 (市債)	62,000円	家や車などの修理、電気製品などの購入費用 (維持補修費、普通建設事業費)	66,000円
預金の取り崩し (繰入金)	10,000円	家族への仕送り、自治会費 (繰入金、補助費など)	149,000円
先月の残金 (繰越金)	12,000円	借入金の返済 (公債費)	31,000円
		友達に貸すお金 (貸付金)	4,000円
		雑費 (その他)	10,000円
合計	434,000円	合計	424,000円

特別会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
国民健康保険特別会計	89億5453万円	88億2785万円	1億2668万円
後期高齢者医療特別会計	10億7567万円	10億7219万円	348万円

●収益的収支 水道水の供給、汚水の適切な処理に必要な財源と経費

企業会計名	収入決算額	支出決算額	差引額
水道事業会計	14億2316万円	13億876万円	1億1440万円
下水道事業会計	8億7854万円	8億1565万円	6289万円

●資本的収支 水道、下水道施設を建設、改良するために必要な財源と経費

企業会計名	収入決算額	支出決算額	差引額
水道事業会計	3億3456万円	6億1087万円	△2億7631万円
下水道事業会計	2億9420万円	6億2098万円	△3億2678万円

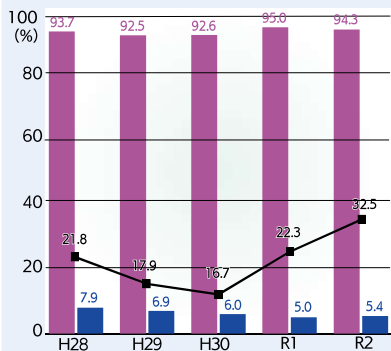
※水道事業会計、下水道事業会計の不足額は、損益勘定留保資金などで全額補填しました。

特別会計 企業会計

特別会計は、特定の事業のために特定の歳入、歳出を一般会計とは区別して管理する会計です。公営企業会計へ移行した下水道事業の収益的収支は、収入8億7854万円に対して、支出8億1565万円で、差し引き純利益は6289万円でした。

財政指標

- 経常収支比率** 財政構造の弾力性を見る指数。この数値が低いほど財政にゆとりがある
 - 実質公債費比率** 標準的な財政規模に対する負債返済の割合
 - 将来負担比率** 標準的な財政規模に対する負債の割合
- ※下表中、市債残高などの将来負担額より基金などの充当可能財源が多いため、比率がマイナスとなり「-」と表示しています。

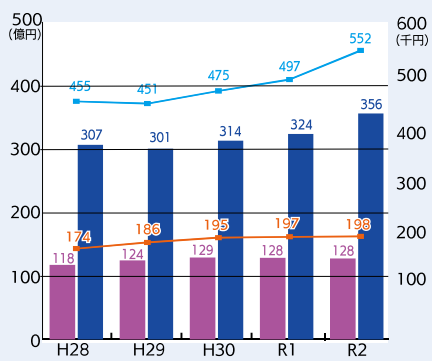


令和2年度 近隣市の財政指標

	経常収支比率	実質公債費比率	将来負担比率
柳川市	94.3	5.4	32.5
大牟田市	95.9	6.9	29.0
筑後市	91.8	8.1	30.0
大川市	95.4	9.0	71.6
みやま市	92.3	4.3	- ※
八女市	94.6	8.9	- ※

基金と市債

- 基金** 年度内の財源調整や施設の維持整備などの特定の目的のために積み立てる市の貯金
- 市債** 主に建設事業の財源にするための借入金。世代間の負担の公平性を保つ機能もある
- 市民1人あたりの基金**
- 市民1人あたりの市債**



令和2年度 近隣市の基金と市債の残高状況

	基金 (千円)	一人当たり基金 (千円)	市債 (千円)	一人当たり市債 (千円)
柳川市	12,759,277	198	35,648,867	552
大牟田市	7,416,549	67	45,366,295	407
筑後市	6,299,699	128	15,392,473	312
大川市	3,642,062	110	15,630,467	470
みやま市	9,325,881	256	21,383,287	588
八女市	17,162,051	278	29,867,611	484

令和2年度の主な事業

若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じるひとづくり

- ▷学校給食費の公会計化 2億5,812万円
- ▷地域子育て支援拠点事業 2,885万円
- ▷子育て世代包括支援センター事業 616万円
- ▷産前産後サポート事業 97万円



子どもは柳川の宝。共にはぐくみ、支える子育て支援を目指す

水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつけるまちづくり

- ▷一般廃棄物処理施設整備事業 17億4,205万円
- ▷クリーク管理費 3億4,165万円
- ▷道路維持補修費 3億2,320万円
- ▷防災行政無線屋外拡声子局増設事業 7,568万円
- ▷水郷柳河掘割地区整備事業 4,243万円
- ▷柳川市可燃ごみ減量作戦プロジェクト事業 680万円



新ごみ焼却施設「有明ひまわりセンター」。11月から試運転を開始

柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり

- ▷市民文化会館整備推進費 26億5,986万円
- ▷柳川観光第2のエンジン創出事業 2,968万円
- ▷NHK大河ドラマ招致事業 650万円
- ▷民間プール活用事業 548万円
- ▷立花宗茂再封400年記念特別展 154万円



立花宗茂柳川復帰400年記念特別講演を開催

柳川の地域資源や産物を誇れるしごとづくり

- ▷農業振興費 2億5,289万円
- ▷漁協共同利用施設整備事業補助金 2,285万円
- ▷ブランド推進費 977万円
- ▷観光プラットフォーム(仮称)構築事業 550万円



冷却設備や佃煮加工施設など漁協の共同利用施設を整備

新型コロナウイルス感染症緊急対策

- ▷特別定額給付金事業 65億4,560万円
- ▷事業者支援事業 (中小事業者へのがんばる応援金など) 4億5,333万円
- ▷観光支援事業 (観光V字回復キャンペーン事業など) 5,166万円
- ▷消費拡大事業 (PayPay連携消費喚起キャンペーン事業など) 1億1,894万円
- ▷経済支援事業 (ひとり親世帯へのがんばる応援金など) 9,340万円
- ▷感染防止事業 (医療機関等感染防止支援金など) 2億8,592万円
- ▷小中学校支援事業 (GIGAスクール構想の加速など) 4億7,472万円



運行数が前年比7倍以上と好評だった「灯り舟」